

## 1. 総括シンポジウムの予告

新学術領域研究「ユーラシア地域大国の比較研究」は今年度で終了します。そこで、これまでの成果を総括し、このような研究の今後の可能性について議論するために、総括シンポジウム「ユーラシア地域大国の比較から見える新しい世界像」を開催します。科研費の成果をできるだけ多くの方々に分かりやすく説明することを念頭に置いて、この総括シンポジウムは東京圏で開催することにしました。幸いにも、早稲田大学現代中国研究所が共催となってくださり、早稲田大学国際会議場井深大記念ホールという立派な会場で行う運びとなりました。

プログラムは3部構成となっています。午前の若手セッションでは、本領域研究にプロジェクト研究員として参加した若手の研究者の方々が、研究成果を披露します。午後のセッションでは、本領域研究において6つ設けられた計画研究から1人ずつが報告します。以上の9つの報告を通じて、本研究が新しい学術領域を開拓したことを示したいと考えています。最後の総括討論「ユーラシア地域大国比較の成果と可能性」では、各計画研究の代表者をパネリストとして、討論を行います。司会は早稲田大学現代中国研究所の天児慧所長、討論者として国立民族学博物館の小長谷有紀教授をお迎えします。

多くの皆様のご参加をお待ちしております。本領域研究のメンバーの方々には総括班から旅費を支給しますので、万障お繰り合わせのうえ、ご出席くださるようお願いいたします。

[田畑]

新学術領域研究総括シンポジウム

### ユーラシア地域大国の比較から見える新しい世界像

日時：2013年1月26日（土）9：30 - 18：45

場所：早稲田大学国際会議場 井深大記念ホール

（東京都新宿区西早稲田1-6-1 18号館総合学術情報センター内）

[http://www.wispj.com/pdf/map\\_ibuka3.pdf](http://www.wispj.com/pdf/map_ibuka3.pdf)

共催：早稲田大学現代中国研究所、北海道大学スラブ研究センター

後援：地域研究コンソーシアム

9：30 開会

9：40 - 12：00 若手研究者による報告

司会：小松久恵（北海道大学）

1. 前田しほ（北海道大学）

「ロシア・中国の記念碑に見るジェンダー構造」

討論者：高山陽子（亜細亜大学）

2. 任哲（アジア経済研究所），三輪博樹（北海道大学）

「出稼ぎ労働者の中印比較：移動の自由，労働組合とガバナンス」

星野真（北海道大学）

「ロシア・中国・インドにおける地域経済格差」

討論者：梶谷懐（神戸大学）

13：30 - 17：15 各計画研究による報告

1.

司会：松里公孝（北海道大学）

第1班：伊藤融（防衛大学）

「冷戦後インドの対大国外交：「戦略的パートナーシップ」関係の比較考察」

第2班：田原史起（東京大学），松里公孝（北海道大学）

「地方ガバナンスの中・印・露比較：公・共・私の交錯」

第3班：金野雄五（みずほ総研），丸川知雄（東京大学）

「ロシア・中国・インドの対外開放の政策と結果」

2.

司会：長縄宣博（北海道大学）

第4班：山室信一（京都大学）

「国民帝国の形成と空間学知」

第5班：山口昭彦（聖心女子大学）

「周縁から見る「イラン」の輪郭形成と越境：一クルド系名家の軌跡から」

第6班：杉本良男（国立民族学博物館）

「周縁からの統合イデオロギー：マダム・ブラヴァツキーとインド・ナショナリズム」

17：30 - 18：45 総括討論「ユーラシア地域大国比較の成果と可能性」

司会：天児慧（早稲田大学）

パネリスト：各計画研究代表者

田畑伸一郎（北海道大学）、岩下明裕（北海道大学）、唐亮（早稲田大学）、上垣彰（西南学院大学）、宇山智彦（北海道大学）、山根聡（大阪大学）、望月哲男（北海道大学）

討論者：小長谷有紀（国立民族学博物館）



## 2. 第7回国際シンポジウム開催される

7月4－5日、SRC 大会議室で第7回新学術領域国際シンポジウム「帝国から地域大国へ、国家と非国家の間で」が開催されました。これは、新学術領域研究「ユーラシア地域大国の比較」における最後の国際的な催しです。主に第2班（内政）と第5班（社会）が担当しました。水曜日には、国際若手ワークショップとセオドア・ウィークス SRC 客員教授の記念講演がありました。若手ワークショップの3ペーパーは、非承認国家問題と正教会の分離独立に関わるものでシンポ全体の内容と呼応していました。

初日の基本コンセプトは「トランスナショナリズム」でした。これは、地域大国の強さは国別に政治・軍事・経済資源を測るようなやり方ではわからず、むしろトランスナショナルなアクターをうまく利用しているか、それらと協業しているかが重要であるという第5班の基本思想から導き出されたものです。「帝国と政治地理」、「宗教政治とトランスナショナリズム」、「地域大国の周縁と『近隣外国』を跨ぐ紛争」の3セッションが行われ、9ペーパーが提出されました。

二日目の基本コンセプトは「権威主義体制」でした。中国はまだ古典的権威主義体制ですし、CIS 諸国の大半では競争的権威主義体制が成立しています。1990年代に盛んだった民主化論は、古典的権威主義体制から競争的権威主義体制への移行を逸脱としか見ませんでしたが、こんにちでは競争的権威主義体制は、それ自体が実証研究の対象として認められています。「競争的権威主義体制の比較：理論的挑戦」、「体制転換か、それとも体制動態か？政治的揺れ戻しの比較研究」、「地域大国の権威主義的な指導者と言説」の3セッションが行われ、9ペーパーが提出されました。

若手シンポも含めた報告者の国別内訳は次のとおりです（国籍ではなく勤務地別）。日本10、アメリカ7、ドイツ、イスラエル、ルーマニア、ウクライナ、オーストラリアが1人ずつ。内容上のバランスについては、パキスタンから来るはずだった研究者が1人キャンセルしたこともあり、南アジアに言及したペーパーが3本にとどまったことが残念でした。

なお、シンポの後、外国人ゲストのうち希望者は、大阪大学と早稲田大学に分かれてセミナーを行いました。 [松里]



### 3. 第6回全体集会開かれる

7月7日(土)の午後には、新学術領域研究第6回全体集会「最終成果出版の準備報告会」が開かれました。この報告会は、今年1月に開かれた前回の全体集会に引き続き、プロジェクトの最終成果として出版が予定されている本の原稿読み合わせとなるものです。今回は、当領域研究の1班、4班、6班からそれぞれ1組ずつ選ばれた報告者が、これまでに用意した原稿をもとに、会場に集まった40名ほどの前で報告を行いました。

報告では、まず第4班の池田嘉郎氏が、第一次世界大戦から諸帝国の崩壊に至る中で、各地に様々な形でナショナリズムが勃興したことをとりあげ、とりわけ自治制度に着目しながら「帝国の遺産」について報告を行いました。続いて第1班の兵頭慎治氏は、2012年3月にロシア大統領に再選されたプーチンによる国家発展戦略を、ロシアとアメリカ、中国、インドの国際関係の座標軸に置いて分析した結果を報告しました。第6班からは小林宏至・高橋沙奈美・前島訓子の三氏が報告し、それぞれ中国福建省の客家土楼、ソロフキ諸島のロシア正教修道院、インドのブダガヤ仏教遺跡の事例を紹介しながら、宗教的文化遺産の表象と管理をめぐる問題について比較検討を行いました。

各報告の前には、それぞれの班の研究代表者が、班ごとに構成される本の概要を説明し、報告内容と合わせて会場から質問を受けました。どの報告においても、会場では盛んに質疑応答が交わされました。なお、当領域研究の全体集会としては、今回で最終となります。

[後藤]

#### 新学術領域第6回全体集会

「最終成果出版の準備報告会」

日時：2012年7月7日(土)午後13:30～18:30

場所：北海道大学スラブ研究センター4階大会議室(403号室)

プログラム

13:30～15:00：第4巻(第4班)

司会：宇山智彦(北海道大学)

報告者：池田嘉郎(東京理科大学)

「第一次世界大戦と帝国の遺産」

15:15～16:45 : 第3巻 (第1班)

司会：岩下明裕 (北海道大学)

報告者：兵頭慎治 (防衛研究所)

「プーチン・ロシアの国家発展戦略——多極世界下の米中印露関係」

17:00～18:30 : 第6巻 (第6班)

司会：望月哲男 (北海道大学)

報告者：高橋沙奈美 (日本学術振興会特別研究員), 前島訓子 (名古屋大学), 小林宏至 (首都大学東京)

「地域大国の世界遺産——宗教と文化財」



#### 4. 『比較地域大国論集』第9号, 10号, 11号刊行される

当領域研究から非定期で刊行されている『比較地域大国論集』の第9号, 第10号, 第11号が相次いで発行されました。

第9号の宇山智彦編 *Empire and After: Essays in Comparative Imperial and Decolonization Studies* は, 第4班「帝国論」の研究テーマである帝国の歴史と, その崩壊・再編プロセスの比較論集となっています。アレクサンダー・モリソン論文および宇山智彦論文は, ロシア領中央アジア, 英領インドなどの歴史を通して, 近代帝国を比較する方法と視角を検討し, 福田宏論文は帝国の狭間に置かれた中欧小国群の生存戦略を論じます。また, 2010年3月8日～9日に東京大学で行われたワークショップ “New International Order of Asia and Regional Powers in the 1950s and 1960s” に提出された5本の報告ペーパーは, 脱植民地化と冷戦の関係, 特に帝国崩壊後に生まれた独立諸国を味方につけるために諸大国がどのような政策やレトリックを用いたかを分析しています。全体としてこの論集は, 帝国および脱植民地化を比較する際に, ささまざまな地域間の関係を共時的に見ることが重要であることを論証していると言えます。

第10号の佐藤隆広編 *The BRICs as Regional Economic Powers in the Global Economy* は, 第3班「経済」研究グループを中心に, 2011年12月26日～27日にジャワハルラル・ネルー大学 (JNU) で行われた第5回日印対話 “The BRICs as Regional Economic Powers in the Global Economy” の報告の中から, 10本の論文をまとめたものです。この論集では, BRICs 各国

の経済的な台頭とその固有性を、厳密な定量的分析によって検証しています。金野雄五論文は貿易自由化をロシア・中国・インドで比較し、星野真論文は国内地域経済の収束性をBRICs各国で比較し、新興国の経済発展モデルの固有性の抽出を試みています。そして、8本の論文は、政治経済・産業・生産性・マクロ経済の視点から、近年飛躍の目覚ましいインド・中国それぞれの経済成長を考察しています。また、多くの論文が最先端の分析手法を用いており、自らがフィールドとする国の分析への応用という点においても、この論集は示唆に富んでいるといえましょう。

第11号の望月哲男・前田しほ編 *India, Russia, China: Comparative Studies on Eurasian Culture and Society* は、第6班「文化」班が2011年9月15日-16日にバンガロール文化社会研究センター（インド、バンガロール）で行った国際シンポジウム *Comparative Aspects on Culture and Religion: India, Russia, China* の報告の中から、12本の論文をまとめたものです。このシンポジウムには、インドと日本だけでなく、イギリス、ドイツ、アメリカの研究者が参加し、国際色豊かなものとなりました。会場では白熱した議論が交わされ、論集にはその成果が反映されています。社会的役割、アートとナショナル・アイデンティティ、相互の文化理解・相互作用、大衆文化におけるアイデンティティの問題、また普遍的とされる問題への「アジア」的視座からのアプローチ（知的所有権、ジェンダー）といった多岐にわたる切り口で、近現代のインド、中国、ロシアの文化的アイデンティティの諸相に迫ります。収録内容は新学術領域ウェブサイトの出版のページからダウンロードできます。 [宇山／星野／前田]



## 5. 各班研究会情報

### 第2班

#### ◆SRC 新学術領域研究セミナー

日時：2012年11月7日（水）16:30~18:00

題目：「世界システム論、経済的後進性の議論を越えて——ロシアの農奴制とその残滓を再検討する」

報告者：Alessandro Stanziani（Ecole des hautes études en sciences sociales, Paris, France）

使用言語：英語

会場：北海道大学スラブ研究センター4階小会議室（401）

連絡先：松里公孝

第3班

◆SRC 新学術領域研究セミナー

日時：2011年11月8日（木）18:00～19:30

題目：「ロシアのパイプライン・ジオポリティクス」

講師：本村真澄（石油天然ガス・金属鉱物資源機構（JOGMEC））

会場：北海道大学スラブ研究センター小会議室（401）

連絡先：田畑伸一郎

第4班

◆ワークショップ「戦時期日本の喇嘛教・回教工作」

日時：2012年12月1日（土）13:30～18:00

会場：東京理科大学 PORTA 神楽坂7階第3会議室

プログラム：

1. 大陸における対「喇嘛教」活動

報告者：リ・ナランゴア（オーストラリア国立大学），高本康子（北海道大学）

討論者：広川佐保（新潟大学）

司会者：島田美和（慶應義塾大学）

2. 中国・東南アジア地域における回教工作

報告者：小林寧子（南山大学），安藤潤一郎（東洋大学）

討論者：松本ますみ（敬和学園大学）

司会者：宇山智彦（北海道大学）

3. 全体討論

◆ワークショップ「ユーラシア地域帝国としての清朝研究」

日時：2012年12月16日（日）

会場：東京大学駒場キャンパス

報告者：杉山清彦（東京大学），小林亮介（日本学術振興会），阿部由美子（東京大学大学院）ほか

(詳細は後日発表)

第6班

◆SRC 新学術領域研究セミナー

日時： 2012年10月27日(土) 14:00～17:00

1. 「間宮林蔵は北の大地で何を見たのか——清朝期の東北地域における民族移動と多民族的混交」

報告者：王中忱(清華大学教授, 東京大学客員教授)

2. 「蒙民厚生会の設立とその文化・教育支援事業」

報告者：ナヒヤ(武蔵大学・和光大学非常勤講師)

使用言語：日本語

会場：北海道大学スラブ研究センター4階小会議室(401)

連絡先：望月哲男

◆SRC 新学術領域研究セミナー

日時： 2012年11月27日(火) 16:30～18:00

題目：「イスィドラ・セクリッチとセルビアにおける日本文化の受容」

講師：山崎佳代子(詩人・翻訳家, ベオグラード大学教授)

会場：北海道大学スラブ研究センター4階小会議室(401)

連絡先：望月哲男

発行者：田畑伸一郎(領域代表者)

事務局：越野剛, 後藤正憲, 阿部僚子

電話 011 - 706 - 4809

ファクス 011 - 706 - 4952

メール rp@slav.hokudai.ac.jp

H P <http://src-h.slav.hokudai.ac.jp/rp/index.html>

住所 〒060-0809 札幌市北区北9条西7丁目  
北海道大学スラブ研究センター